

市民防災研修会 講演「東日本大震災の現状と教訓」

市民防災研修会を開催

1月17日（土）、厚木市文化会館大ホールいっぱいの人々が集まり「厚木市制60周年カウントダウン事業 平成26年度市民防災研修会」が開催されました。

主催者の厚木市自主防災連絡協議会会長・小瀬村泰久氏は「災害は必ず来る。防災訓練・研修と併せて日頃の生活の中で、お隣近所が仲よくすることが互助の基本だ」とあいさつ。

厚木市長は「富士山噴火や南海トラフ地震、首都直下型地震など、災害をとりまく状況が変わっている。従来からの災害対策では十分ではない。市は防災対策の見直しを行っており、今春までに2回目の見直しをまとめた。最小限の被害にとどめるために、現場でたかっている人の声を聞き、みんなで意識を共有していきたい。実践的研修を」と話しました。

災害の現場から

大船渡市長・戸田公明氏

第一部は講演。岩手県大船渡市長・戸田公明氏から「東日本大震災の現状と教訓」と題して、実際の被害とその対応へのリアルな話がありました。

地震が発生した時はちょうど3

月議会の真っ最中であつたが、すぐに災害対策本部を立ち上げた。2時49分には大津波警報が出て、54分には津波の第一波が押し寄せた。リアス式の海岸で沿岸地域は甚大な被害を受けた。しかし、市内吉浜地域だけは明治大津波で高台移転をしていたので、被害がほとんどなかった。

東日本大震災から4年近くたち、270の災害復興プログラムのうち3割は完了、7割が工事中である。支援してくれた多くの方から感謝している。

避難所は68か所設け、最大で8700人が避難した。避難した人の要求は最初は食料・水・生活物資であつたが、2〜3週目はガソリン・灯油に、4週目になって生活の質向上が課題となつた。

被災地域のまちづくりの方向や住居の再建、生業の再生など、今後の課題は多くある。

頑張る「いがったんたら」

第二部はダンス披露

岩手県釜石市の子どもたちのダンスチーム「いがったんたら」です。仮設住宅で暮らす子どもたちの運動不足解消にと4人が

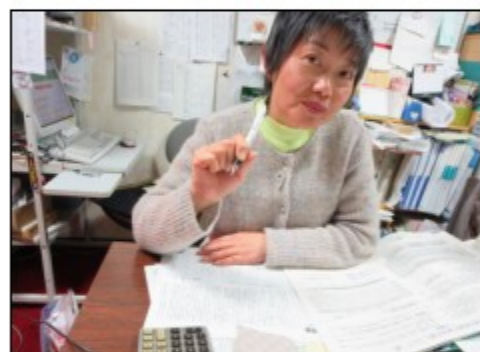
今週の活動から

1月17日（土）厚木市文化会館大ホールで「市民防災研修会」。ダンスチーム「いがったんたら」の「いがった」は岩手・釜石弁で「よかった」の意味だそうです。（上：釘丸久子議員）



いろいろな活動をしていてもつい写真を撮り忘れてしまいます。

仕方なく、…議員団ニュース作成中に撮影。（下：栗山香代子議員）



パブリックコメント一覧(実施中・今後の予定)

名 称	時 期	所管課
厚木市火災予防条例の一部改正に伴う消防本部告示（案）	1月15日～2月16日	予防課
厚木市耐震改修促進計画の改定(案)	1月15日～2月16日	建築指導課
情報化推進計画	1月5日～2月4日	情報政策課
環境基本計画・一般廃棄物処理基本計画の改定	1月5日～2月4日	環境政策課
(仮称)厚木市公共施設最適化基本計画	2月16日～3月17日	企画政策課
厚木市スポーツ施設整備推進計画(案)	2月16日～3月17日	スポーツ政策課



子どもたちの元気なダンスに会場から大きな拍手

ら始めたのが今では80人に。それまで兄弟げんかをしたり、ふざぎ込んでいた子どもたちが笑顔に戻り、元気になったといえます。

子どもたちの代表から「全国の方々の支援で僕たちは元気を取り戻し、さらにダンスができるようになってうれしい。こうして各地でダンスを踊ることで、皆さんに感謝し、全国に元気を届けていきたいと思います」の言葉がありました。